

刈り取り後の雑草対策

● 多年生雑草の防除

防除対策のポイント

近年、圃場に多発している多年生雑草のオモダカ、クログワイですが、本田で散布した除草剤の効果が薄れる頃に塊茎を形成させ、肥大させ翌年の発生源を作ることが多い。このような難防除雑草を減らすためには、本田で効果のある除草剤の散布に加え、翌年に発生する塊茎を減らす対策をします。



オモダカ

クログワイ

対策①「秋耕し」

塊茎は乾燥や寒さに弱いため、秋耕しをし、地中にあった塊茎を地上に出して枯らします。完全に無くなるわけではありませんが、翌年の塊茎の発生量を減らすことができます。

対策②「刈跡除草剤散布」

収穫後、茎葉から根までの浸透移行して地下部まで枯らすことのできる除草剤（ラウンドアップ）の散布をします。塊茎を肥大させず枯らすことができれば、翌年の発生量を減らすことができます。

除草剤ラウンドアップの水稲刈跡散布のポイント



● 石灰窒素の休眠覚醒効果を利用した「ノビエ」防除

- 石灰窒素の主成分シアナミドには種子の休眠を覚醒させる効果があり、種子がシアナミドに接触すると呼吸阻害を起こし、発芽を誘発するとされています。最近ではカラスムギ、ネズミムギ、漏生イネにも効果が明らかになっています。
- ノビエの種子は稔実したときは休眠しており、自然条件では冬を経過しなければ発芽しません。翌年になると多発生するため、その間にノビエの種子数を削減させる必要があり、対策として石灰窒素の休眠覚醒効果が注目されています。稲刈り後できるだけ早く(9月中)石灰窒素40~50kg/10aを全面散布すると、地表に落ちているノビエの種子は休眠が覚醒して発芽し、冬の寒さで枯死します。
- 発芽には18℃前後の平均気温が約15日続き、且つ土壤中に発芽できる水分が必要です。秋に発芽しなかった場合は、春先の田植え前に発芽します。このときにすき込めば楽に防除できます。



ポイント ● 収穫後、9月中に作業を行います。気温が下がらず、降雨後又は降雨が見込める2~3日前に散布します。石灰窒素を10a当たり40kg~50kg散布し耕耘します。

